



学校だより

バンクーバー補習授業校

2025年度
第23号
2026・1・28

卒業生医師に学ぶ進路と生き方

～ 医師として、ひとりの人として ～

1月17日(土)、本校中学部・高等部を対象に、キャリア講話を実施しました。今回は、本校高等部卒業生であり、現在カナダで医師としてご活躍されている 田中 朝絵 氏 を講師としてお迎えしました。当日は、生徒に加え、約十数名の保護者の皆様にも参観いただきました。

講話では、8歳のときにカナダへ渡られ、補習校に通いながら成長されたご自身の経験をもとに、カナダで学び、カナダで医師になるまでの道のりについて、補習校での思い出も含め、具体的にお話しいただきました。高校卒業後の進路選択、大学での学び、医学部進学、研修医としての経験など、一つ一つの段階で何を考え、どのような姿勢で向き合ってきたのかを、率直な言葉で語ってくださいました。

また、医師としての仕事内容にとどまらず、「ファミリードクターとして人の体と心を丸ごと診ること」「患者一人一人と長い時間をかけて関わることの大切さ」など、医療に向き合う中で大切にされている価値観についても触れられました。

さらに、進路や人生について悩んだときの心構えとして、「べき・べからずに縛られすぎないこと」「迷ったときは“愛”を選ぶこと」「人はそれぞれ違う花を咲かせる存在であること」といった、田中 医師ご自身の哲学が、生徒たちの心に静かに響く講話となりました。

特に、現地校での学びを続けながら将来の進路を考える本校生徒にとって、カナダでの大学進学や進路選択を考える際の具体的な視点を得られたことは、今後を見据えるうえで大きなヒントとなったようです。

講話後には、生徒から「将来について前向きに考えられるようになった」「選択肢が広がった」といった感想が多く寄せられました。

本校では、今後も卒業生や地域で活躍されている方々にお話をうかがう機会を通して、生徒一人一人が自らの生き方や進路について考え、主体的に選択していく力を育てたいと考えております。



【生徒の感想から】 ※読み手に伝わりやすくなるよう表現を一部修正した箇所があります。

- ・これまで、医師や医学に強い関心があったわけではありませんでした。講話を聞く中で、ファミリードクターとして患者の方々と長年関わり、さまざまな人と出会える仕事であることに、魅力を感じました。また、スライドにあった「沢山の文化を知っていると、本当に正しいこと・間違っていることは、とても少ないということに気付く。」という言葉は、日本と海外の両方で生活している自分にとって、心が落ち着く言葉でした。自分の居場所 (belonging) について悩んできたからこそ、この言葉に勇気づけられました。(中2)

- ・今回のキャリア講話の先生は、補習校を卒業してカナダで医師として活躍されている方だったので、進路について具体的に考えるのに役に立ちました。僕はとりあえず英語力を伸ばして、こちらの大学でも通用するレベルになればいいなと思っています。僕は、今はあまり上手く話せないし、聞き取りも上手くなくて、よく「これで合っているのか」と不安になるのですが、今回のお話の中で「起こったことはしかたがない」「どうにかなる」という言葉を聞いて、もし失敗したり間違えたりしても「気にせず明日のことを考える」ということを心がけようと思いました。(中1)



- ・田中先生は、昔どのようにしてカナダに来たのかなどをお話してくださり、なぜか心の奥でロマンチックですごいなと思いました。最後に田中先生が伝えてくださったメッセージを覚えて帰ろうと思いました。迷っている自分の背中を押してくださるようなメッセージをいただき、ありがたく思いました。(中1)
- ・田中先生のものごとのとらえ方や考え方にとっても関心を持ちましたし、尊敬します。田中先生のメッセージはとても心に残り、本当に勉強になりました。自分の不安だらけの将来に少し希望を感じることができました。(中3)



・今回のキャリア講話では、人とのつながり、生き方、そして自分なりの価値観を大切にすることなどを学んだ。人と関わることで、自分を知ることができるということに気付いた。今後は、人と前向きに関わることを意識しようと思う。また、「もっと気楽でいい」という言葉を聞き、少し肩の荷が下りた気がした。今、将来のことで悩むことが多く、いろいろと考えすぎているかもしれないと思った。「迷ったら愛を選ぶ」という言葉も大切にしたい。(高)

- ・カナダの価値観と日本の風潮が異なり、何が本当の正解なのか、自分はどうあればいいか悩むことがあるが、「好きな方でいい」「中途半端でもいい」というメッセージが、すごく心に残りました。今回の講話を聞いて、進路とは単に職業を選ぶということではなく、自分がこの先、どういう姿勢で生きていくのかを選ぶことなのだと感じました。(高)